

平成 27 年度 学校保健委員会報告

～PTA役員、PTA厚生研修委員、学級PTA委員の皆様、御参加ありがとうございました！～

10月2日(金)に第1回学校保健委員会を開催しました。今回は、豊田中生徒の体格・疾病・体力についての報告の他、マインドサポーターEGAO代表 ハートフルコーチの佐々木雅啓様をお招きし、「思春期の子どもの接し方」をテーマに、思春期の子どものコーチングや家庭での子どもとの接し方について講話をしていただきました。



◇◆マインドサポーターEGAO代表 ハートフルコーチ 佐々木 雅啓様◆◇

心理学の神経言語プログラミングを軸とした、カラダで感じるコミュニケーション講座や、楽しい子育て親育ちのためのプログラム、「ハートフルセッション」や「子どもの心のコーチング実践ワークショップ」など、様々なところで御活躍されています。

「力に気づく」「伝える」「任せる」 ～自立させるために～

～力に気づく～

「お子さんが成長したと思うことは何でしょうか？」講話の中で小グループで意見交換をしました。「気になるところはすぐにでてくるのだけれども…」という言葉がたくさん出ましたが、振り返る中で「自分で起きられるようになった」「自分でご飯をよそうようになった」等、お子さんの成長に気づく良い機会となりました。皆さんのお子さんはどうでしょうか？

～伝える～

成長したことに気づいてもなかなか言葉に出して伝えていないことが多いですが、言葉に出して子どもに伝えることが大切。「自分で起きられるようになって成長したね」「自分でご飯をよそってえらいね」と言葉に出して伝えることで、子どもたちは「ちゃんとみている、認めてくれる」と自信や、やる気につながります。



～任せる～

「任せる」ことで、子どもが自分で考えて行動するようになります。それがうまくいけば自信ややる気につながります。うまくいかなければ、また自分で考えて…と問題解決能力が育っていきます。しかし現実には「朝時間がなくて自分がやった方が早い」「遅刻しそうでだから結局起こしてしまう」と手を出してしまいがちなようです。「任せる」ポイントは、「まず子どもと向き合って、任せる理由を伝えること、本気・覚悟を

伝えること」それからは「毅然とした態度で決めたら貫くこと」です。子どもが困っている気持ちは聞くけれども、がまんして手はださないことが大切だとわかりました。意見交換では、「任せようと思うこと」として「自分の物は片付ける(食べたお皿、給食セットなど)」「朝自分で起きること」「体操服や給食セット、水筒などを自分で準備すること」などができました。